

第10課 「サタンの最後の欺き」 5月27日 (口語訳)

暗唱聖句

真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。ヨハネ 17:17

日曜日「人が見て自らを正しいとする道」

問1. 黙示録 12:9 (新 398 ページ)

この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。

問2. 箴言 14:12 (旧 896 ページ)

人が見て自ら正しいとする道でも、その終りはついに死に至る道となるものがある。

月曜日「昔ながらの不死という嘘」

問3. 黙示録 16:13, 14 (新 402 ページ)

また見ると、龍の口から、獣の口から、にせ預言者の口から、かえるのような三つの汚れた霊が出てきた。14これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった。

同 18:2, 23 (新 403, 404 ページ)

2 彼は力強い声で叫んで言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなった。

23 また、おまえの中では、あかりもともされず、花婿、花嫁の声も聞かれない。というのは、おまえの商人たちは地上で勢力を張る者となり、すべての国民はおまえのまじないでだまされ、

問4. 伝道の書9:5 (旧 929 ページ)

生きている者は死ぬべき事を知っている。しかし死者は何事をも知らない、また、もはや報いを受けることもない。その記憶に残る事がらさえも、ついに忘れられる。

ヨブ記 19:25~27 (旧 719 ページ)

わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。26 わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉を離れて神を見るであろう。27 しかもわたしの味方として見るであろう。わたしの見る者はこれ以外のものではない。わたしの心はこれを望んでこがれる。

1テサロニケ4:16, 17 (新 322 ページ)

16 すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラツパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、17 それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。

黙示録 14:13(新 400 ページ)

またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今から後、主にあつて死ぬ死人はさいわいである』」。御霊も言う、「しかり、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく」。

火曜日「太陽崇拝の中心地、バビロン」

問 5. エゼキエル 8 : 16 (旧 1158 ページ)

彼はまたわたしを連れて、主の家の内庭にはいった。見よ、主の宮の入口に、廊と祭壇との間に二十五人ばかりの人が、主の宮にその背中を向け、顔を東に向け、東に向かって太陽を拝んでいた。

列王記下 23:5、11(旧 557 ページ)

また、ユダの町々とエルサレムの周囲にある高き所で香をたくためにユダの王たちが任命した祭司たちを廃し、またバアルと日と月と星宿と天の万象とに香をたく者どもをも廃した。

11 またユダの王たちが太陽にささげて主の宮の門に置いた馬を、境内にある侍従ナタンメレクのへやのかたわらに移し、太陽の車を火で焼いた。

ローマ 1:25(新 234 ページ)

わたしは、あなたがたに会うことを熱望している。あなたがたに霊の賜物を幾分でも分け与えて、力づけたいからである。

水曜日「忠実であるようにとの召し」

問 6. エゼキエル 20: 1 ~ 20 (旧 1173~1175 ページ)

ご自分の聖書でお開きください。

1コリント 10:11(新 267 ページ)

これらの事が彼らに起つたのは、他に対する警告としてであつて、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。

木曜日「従順へと導く恵み」

問 7. 黙示録 18: 4, 5 (新 403 ページ)

わたしはまた、もうひとつの声为天から出るのを聞いた、「わたしの民よ。彼女から離れ去つて、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。5 彼女の罪は積り積つて天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる。

問 8. 1ヨハネ 3 : 4 (新 378 ページ)

すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。

ローマ 14:23 (新 252 ページ)

しかし、疑いながら食べる者は、信仰によらないから、罪に定められる。すべて信仰によらないことは、罪である。